

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと
なにぬねの はひふへほ まみむめも やゆゆえよ
らりるれろ わをん あいうえお つやゆよわ

アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
ナニヌネノ ハヒフヘホ マミムメモ ヤユユエヨ
ラリルレロ ワラン アイウエオ ツヤユヨワ
アイヴエオ ガギグゲゴ ガギグゲゴ ギジズゼゾ

ABCDE FGHIJ KLMNO PQRST UVWXYZ
abcde fghij klmnopqrstuvwxy z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
ABCDE FGHIJ KLMNO PQRST UVWXYZ
abcde fghij klmno pqrst uvwxyz : ; : ; _

悪安暗医 委意育員 院飲運泳 駅央横屋 温化荷開
界階寒感 漢館岸起 期客究急 級宮球去 橋業曲局
銀区苦具 君係輕血 決研県庫 湖向幸港 号根祭皿
仕死使始 指齒詩次 事持式実 写者主守 取酒受州
拾終習集 住重宿所 暑助昭消 商章勝乘 植申身神
真深進世 整昔全相 送想息速 族他打对 待代第題
炭短談着 注柱丁帳 調追定庭 笛鉄転都 度投豆島
湯登等動 童農波配 倍箱畑発 反坂板皮 悲美鼻筆
氷表秒病 品負部服 福物平返 勉放味命 面問役薬
由油有遊 予羊洋葉 陽様落流 旅両緑礼 列練路和

、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

一右雨円 王音下火 花貝学気 九休玉金 空月犬見
五口校左 三山子四 糸字耳七 車手十出 女小上森
人水正生 青夕石赤 千川先早 草足村大 男竹中虫
町天田土 二日入年 白八百文 木本名目 立力林六
引羽雲園 遠何科夏 家歌画回 会海絵外 角楽活間
丸岩顔汽 記帰弓牛 魚京強教 近兄形計 元言原戸
古午後語 工公広交 光考行高 黄谷谷国 黒今才細
作算止市 矢姉思紙 寺自時室 社弱首秋 週春書少
場色食心 新親図数 西声星晴 切雪船線 前組走多
大体台地 池知茶昼 長鳥朝直 通弟店点 電刀冬当
東答頭同 道読内南 肉馬壳買 麦半番父 風分聞米
歩母方北 每妹万明 鳴毛門夜 野友用曜 来里理話

庠移因永 營衛易益 液演応往 桜恩可仮 価河過賀
快解格確 額刊幹慣 眼基寄規 技義逆久 旧居許境
均禁句群 経潔件券 険檢限現 減故個護 効厚耕鉦
構興講混 查再災妻 採際在財 罪雜酸賈 支志枝師
資飼示似 識質舍謝 授修述術 準序招承 証条状常
情織職制 性政勢精 製稅責績 接設舌絶 錢祖素総
造像増則 測属率損 退貧態回 断築張提 程適敵統
銅導德独 任燃能破 犯判版比 肥非備俵 評貧布婦
富武復複 仏編弁保 墓報豊防 貿暴務夢 迷綿輸余
預容略留 領

異遺域宇 映延沿我 灰抃革閣 割株干卷 看簡危机
貴揮疑吸 供胸鄉勤 筋系敬警 劇激穴絹 権憲源敵
己呼誤后 孝皇紅降 鋼刻穀骨 困砂座済 裁策冊蚕
至私姿視 詞誌磁射 捨尺若樹 収宗就衆 従縦縮熟
純処署諸 除將傷障 城蒸針仁 垂推寸盛 聖誠宣専
泉洗染善 奏窓創装 層操藏臟 存尊宅担 探誕段暖
值宙忠著 庁頂潮賃 痛展討党 糖届難乳 認納脳派
拜背肺俳 班晚否批 秘腹奮並 陛閉片補 暮宝訪亡
忘棒枚幕 密盟模訳 郵優幼欲 翠乱卵覧 裏律臨朗
論

愛案以衣 位囲胃印 莢菜塩億 加果貨課 芽改械害
 街各覚完 官管関観 願希季紀 喜旗器機 議求泣救
 給拳漁共 協鏡競極 訓軍郡径 型景芸欠 結建健験
 固功好候 航康告差 菜最材昨 札刷殺察 参産散残
 士氏史司 試児治辞 失借種周 祝順初松 笑唱燒象
 照賞臣信 成省清静 席積折節 說淺戰選 然争倉巢
 束側統卒 孫帶隊達 单置仲貯 兆腸低底 停的典伝
 徒努灯堂 働特得毒 熱念敗梅 博飯飛費 必票標不
 夫付府副 粉兵別辺 変便包法 望牧未満 未脈民無
 約勇要養 浴利陸良 料量輪類 令冷例歴 連老労録

悪安暗医 委意育員 院飲運泳 駅央横屋 温化荷開
 界階寒感 漢館岸起 期客究急 級宮球去 橋業曲局
 銀区苦具 君係軽血 決研県庫 湖向幸港 号根祭皿
 仕死使始 指齒詩次 事持式実 写者主守 取酒受州
 拾終習集 住重宿所 暑助昭消 商章勝乘 植申身神
 真深進世 整昔全相 送想息速 族他打对 待代第題
 炭短談着 注柱丁帳 調追定庭 笛鉄転都 度投豆島
 湯登等動 童農波配 倍箱畑発 反坂板皮 悲美鼻筆
 水表秒病 品負部服 福物平返 勉放味命 面問役菓
 由油有遊 予羊洋葉 陽様落流 旅両緑礼 列練路和

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 0123456789 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
 ナニヌネノ ハヒフヘホ マミムメモ ヤキユエヨ
 ラリルレロ ワラン アイウエオ ツヤユヨワ
 アイヴエオ ガギグゲゴ ガギグゲゴ ザジズゼゾ
 ダヂヅデド デニズネノ バビブベボ パピブペポ
 マミムメモ ヤエヨ デブルレロ ジゼツド
 アイヴエオ カガケゲツ ブヤエヨブ ムーシッ

♠ ♡ ♢ ♣ ♠ ♡ ♢ ♣
 I II III IV V VIII IX X
 ○ □ ◻ ◼ ◽ ◾ ◿
 ☆ ★ ♪

引羽雲團 遠何科夏 家歌画回 会海絵外 角楽活間
 丸岩顔汽 記帰弓牛 魚京強教 近兄形計 元言原戸
 古午後語 工公広交 光考行高 黄谷谷国 黒今才細
 作算止市 矢姉思紙 寺自時室 社弱首秋 遇春書少
 場色食心 新親凶数 西声星晴 切雪船練 前組走多
 太体台地 池知茶昼 長鳥朝直 通弟店点 電刀冬当
 東答頭同 道読内南 肉馬壳買 麦半番父 風分聞米
 歩母方北 每妹万明 鳴毛門夜 野友用曜 来里理話

庄移因永 營衛易益 液演応往 桜恩可仮 価河過賀
 快解格確 額刊幹慣 眼基寄規 技業逆久 旧居許境
 均禁句群 經潔件券 險檢限現 減故個護 効厚耕鉞
 構興講混 查再災妻 採際在財 罪雜酸賈 証条状常
 資飼示似 識質舍謝 授修述術 準序招承 証条状常
 情織職制 性政勢精 製稅責績 接設舌絶 錢祖素総
 造像増則 測属率損 退貧態回 断築張提 程適敵統
 銅導德独 任燃能破 犯判版比 肥非備俵 評貧布婦
 富武復復 仏編弁保 墓報豊防 質暴務夢 迷綿輸余

異遣域宇 映延沿我 灰抃革閣 割株干卷 看簡危机
 貴揮疑吸 供胸郷勤 筋系敬警 劇激穴絹 権憲源敵
 己呼誤后 孝皇紅降 鋼刻穀骨 困砂舌済 從縱縮熟
 至私姿視 詞誌磁射 捨尺若樹 収宗就衆 聖誠宣專
 純処署諸 除將傷障 城蒸針仁 垂推寸盛 探誕段暖
 泉洗染善 奏窓創装 層操藏臟 存尊宅担 認納腦派
 値宙忠著 庁頂潮賃 痛展討党 糖届難乳 暮宝訪亡
 拜背肺俳 班晚否批 秘腹奮並 陛閉片補 裏律臨朗
 忘棒枚幕 密盟模訳 郵優幼欲 翠乱卵覽

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと
 なにぬねの はひふへほ まみむめも やるゆるよ
 らりるれろ わをん あいうえお つやゆよわ
 あいうえお がぎぐげご がぎぐげご さじずぜぞ
 だちづでど なにぬねの ばびぶべぼ ばびぶべぼ
 ざまむめも やゆよ ばりるれろ わびぶべん
 あいうえお がげづ やゆよ
 アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
 ナニスネノ ハヒフヘホ マミムメモ ヤキユエヨ
 ラリルレロ ワラン アイウエオ ツヤユヨワ
 アイヴエオ ガギグゲゴ ガギグゲゴ ザジズゼゾ
 ダヂヅデド デニズネノ バビブベボ パビブペボ
 マミムメモ ヤエヨ ヌブルレロ ジゼツド
 アイヴエオ カガケゲツ プヤエヨワ ムドゥム

ABCDEF GHIJ KLMNOPQRST UVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 0123456789 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
 ABCDEFGHIJ KLMNO PQRST UVWXYZ
 abcde fghij klmno pqrst uvwxyz

悪安暗医 委意育員 院飲運泳 駅央横屋 温化荷開
 界階寒感 漢館岸起 期客究急 級宮球去 橋業曲局
 銀区苦具 君係輕血 決研県庫 湖向幸港 号根祭皿
 仕死使始 指齒詩次 事持式実 写者主守 取酒受州
 拾終習集 住重宿所 暑助昭消 商章勝乘 植申身神
 真深進世 整昔全相 送想息速 族他打对 待代第題
 炭短談着 注柱丁帳 調追定庭 笛鉄軛都 度投豆島
 湯登等動 童農波配 倍箱畑発 反坂板皮 悲美鼻筆
 氷表秒病 品負部服 福物平返 勉放味命 面問役薬
 由油有遊 予羊洋葉 陽様落流 旅両緑礼 列練路和

愛案以衣 位囿胃印 莢菜塩億 加果貨課 芽改械害
 街各覚完 官管関観 願希季紀 喜旗器機 議求泣救
 給拳漁共 協鏡競極 訓軍郡徑 型景芸欠 結建健験
 固功好候 航康告差 菜最材昨 札刷殺察 参産散残
 士氏史司 試児治辞 失借種周 祝順初松 笑唱焼象
 照賞臣信 成省清静 席積折節 說浅戰選 然争倉巢
 束側統卒 孫帶隊達 单置仲貯 兆腸低底 停的典伝
 徒努灯堂 働特得毒 熱念敗梅 博飯飛費 必票標不
 夫付府副 粉兵別辺 変便包法 望牧未満 未脈民無
 約勇要養 浴利陸良 料量輪類 令冷例歴 連老勞録

。、々、〇□△▽■◆◇☆★
 I II III IV V VIII IX X
 ♠♣♠♣♦♥♥♥♥♥
 !?!? : ; ~ = > < 『 』 『 』
 ♪
 縦中横 ↓ !! !? !? !! ? ?

一右雨円 王音下火 花貝学気 九休玉金 空月犬見
 五口校左 三山子四 糸字耳七 車手十出 女小上森
 人水正生 青夕石赤 千川先早 草足村大 男竹中虫
 町天田土 二日入年 白八百文 木本名目 立力林六
 引羽雲園 遠何科夏 家歌画回 会海絵外 角楽活間
 丸岩顔汽 記帰弓牛 魚京強教 近兄形計 元言原戸
 古午後語 工公広交 光考行高 黄谷谷国 黒今才細
 作算止市 矢姉思紙 寺自時室 社弱首秋 週春書少
 場色食心 新親函数 西声星晴 切雪船線 前組走多
 太体台地 池知茶昼 長鳥朝直 通弟店点 電刀冬当
 東答頭同 道読内南 肉馬壳買 麦半番父 風分聞米
 歩母方北 每妹万明 鳴毛門夜 野友用曜 来里理話

圧移因永 營衛易益 液演応往 桜恩可仮 価河過賀
 快解格確 額刊幹慣 眼基寄規 技莖逆久 旧居許境
 均禁句群 経潔件券 険檢限現 減故個護 効厚耕鉞
 構興講混 查再災妻 採際在財 罪雜酸賈 支志枝師
 資飼示似 識質舍謝 授修述術 準序招承 証条状常
 情織職制 性政勢精 製稅責績 接設舌絶 錢祖素総
 造像増則 測属率損 退貧態回 断築張提 程適敵統
 銅導德独 任燃能破 犯判版比 肥非備俵 評貧布婦
 富武復複 仏編弁保 墓報豊防 質暴務夢 迷綿輪余
 預容略留 領

異遣域宇 映延沿我 灰拡革閑 割株干卷 看簡危机
 貴揮疑吸 供胸郷勤 筋系敬警 劇激穴絹 権憲源敵
 己呼誤后 孝皇紅降 鋼刻穀骨 困砂岳済 裁策冊蚕
 至私姿視 詞誌磁射 捨尺若樹 収宗就衆 從縦縮熟
 純処署諸 除将傷障 城蒸針仁 垂推寸盛 聖誠宣専
 泉洗染善 奏窓創装 層操藏臆 存尊宅担 探誕段暖
 值宙忠著 庁頂潮貫 痛展討党 糖届難乳 認納腦派
 拜背肺俳 班晚否批 秘腹奮並 陛閉片補 暮宝訪亡
 忘棒枚幕 密盟模訳 郵優幼欲 翠乱卵覽 裏律臨朗

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと
 なにぬねの はひふへほ まみむめも やるゆるよ
 らりるれろ わをん あいうえお つやゆよわ
 あいうえお がぎぐげご がぎぐげご ざじずぜぞ
 だぢづでど なにぬねの ばびぶべぼ びびふべぼ
 まみむめも やゆよ びびぶべぼ わびぶべぼ
 あいうえお がげづ やゆよ ざじずぜぞ
 アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
 ナニスネノ ハヒフヘホ マミムメモ ヤキユエヨ
 ラリルレロ ワラン アイウエオ ツヤユヨワ
 アイヴエオ ガギグゲゴ ガキグケゴ ザジズゼゾ
 ダヂヅデド デニズネノ バビブベボ パピブペボ
 マミズメモ ヤエヨ ヌルレロ ジゼツド
 アイヴエオ カガケゲツ プヤエヨワ ヌドゥッ

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 0123456789 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 abcde fghij klmno pqrst uvwxyz .?!:;_

。、、々、（、）※；／＼@ | ……
 十キ*#\$& ○□△▽◇◆☆★♪
 I II III IV V VIII IX X ○●▲▼ □■◆◇ ☆★♪
 ♠♣♠♣◇♥♥♥♥♥♥♥♥
 /!/?/!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!
 縦中横↓!!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!

一右雨円 王音下火 花貝学気 九休玉金 空月犬見
 五口校左 三山子四 糸字耳七 車手十出 女小上森
 人水正生 青夕石赤 千川先早 草足村大 男竹中虫
 町天田土 二日入年 白八百文 木本名目 立力林六
 引羽雲園 遠何科夏 家歌画回 会海絵外 角楽活間
 丸岩顔汽 記帰弓牛 魚京強教 近兄形計 元言原戸
 古午後語 工公広交 光考行高 黄谷谷国 黒今才細
 作算止市 矢姉思紙 寺自時室 社弱首秋 週春書少
 場色食心 新親函数 西声星晴 切雪船線 前組走多
 太体台地 池知茶昼 長鳥朝直 通弟店点 電刀冬当
 東答頭同 道読内南 肉馬売買 麦半番父 風分聞米
 歩母方北 每妹方明 鳴毛門夜 野友用曜 来里理話

悪安暗医 委意育員 院飲運泳 駅央横屋 温化荷開
 界階寒感 漢館岸起 期客究急 級宮球去 橋業曲局
 銀区苦具 君係軽血 決研県庫 湖向幸港 号根祭皿
 仕死使始 指齒詩次 事持式実 写者主守 取酒受州
 拾終習集 住重宿所 暑助昭消 商章勝乘 植申身神
 真深進世 整昔全相 送想息速 族他打对 待代第題
 炭短談着 注柱丁帳 調追定庭 笛鉄転都 度投豆島
 湯登等動 童農波配 倍箱畑発 反坂板皮 悲美鼻筆
 氷表秒病 品負部服 福物平返 勉放味命 面問役薬
 由油有遊 予羊洋葉 陽様落流 旅両緑礼 列練路和

圧移因永 营衛易益 液演応往 桜恩可仮 価河過賀
 快解格確 額刊幹慣 眼基寄規 技義逆久 旧居許境
 均禁句群 経潔件券 険検限現 減故個護 効厚耕鉞
 構興講混 查再災妻 採際在財 罪雜酸賈 支志枝師
 資飼示似 識質舍謝 授修述術 準序招承 証条状常
 情織職制 性政勢精 製稅責績 接設舌絶 錢祖素総
 造像增則 測属率損 退貸態回 断築張提 程適敵統
 銅導德独 任燃能破 犯判版比 肥非備俵 評貧布婦
 富武復複 仏編弁保 墓報豊防 賀暴務夢 迷綿輪余
 預容略留 領

愛案以衣 位囿胃印 英菜塩億 加果貨課 芽改械害
 街各覚完 官管関観 願希季紀 喜旗器機 議求泣救
 給拳漁共 協鏡競極 訓軍郡徑 型景芸欠 結建健験
 固功好候 航康告差 菜最材昨 札刷殺察 参産散残
 士氏史司 試兇治辞 失借種周 祝順初松 笑唱焼象
 照賞臣信 成省清静 席積折節 說浅戦選 然争倉巢
 束側統卒 孫帯隊達 单置仲貯 兆腸低底 停的典伝
 徒努灯堂 働特得毒 熱念敗梅 博飯飛費 必票標不
 夫付府副 粉兵別辺 変便包法 望牧未満 未脈民無
 約勇要養 浴利陸良 料量輪類 令冷例歴 連老労録

異遣域宇 映延沿我 灰拈革閣 割株干卷 看簡危机
 貴揮疑吸 供胸郷勤 筋系敬警 劇激穴絹 権憲源敵
 己呼誤后 孝皇紅降 鋼刻穀骨 困砂舌涿 裁策冊蚕
 至私姿視 詞誌磁射 捨尺若樹 収宗就衆 從縦縮熟
 純処署諸 除将傷障 城蒸針仁 垂推寸盛 聖誠宣専
 泉洗染善 奏窓創装 層操藏臟 存尊宅担 探誕段暖
 值宙忠著 庁頂潮賃 痛展討党 糖届難乳 認納腦派
 拜背肺俳 班晚否批 秘腹奮並 陛閉片補 暮宝訪亡
 忘棒枚幕 密盟模訳 郵優幼欲 翠乱卵覽 裏律臨朗

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと
 なにぬねの はひふへほ まみむめも やるゆるよ
 りりるれろ わをん あいうえお つやゆよわ
 あいうえお がぎぐげご がぎぐげご さじずぜぞ
 だちづてど なにぬねの ばびぶべぼ ぱぴぷぺぽ
 ざみづぞど ぞみぞぞど ざりるぢろ わびぢぞん
 ゑいげえお がげづ ぞゆよお
 アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
 ナニスネノ ハヒフヘホ マミムメモ ヤキユエヨ
 ラリルレロ ワラン アイウエオ ツヤユヨワ
 アイヴエオ ガギグゲゴ ガギグゲゴ ガジズゼゾ
 ダヂヅデド ダニズネブ バビブベボ パピブペポ
 マミムメモ ヤエヨ ヌルルレロ ジゼツド
 アイヴエオ カガケケツ ブアエエヨ ヌドッ

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 0123456789 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz .?!:~

悪安暗医 委意育員 院飲運泳 駅央横屋 温化荷開
 界階寒感 漢館岸起 期客究急 級宮球去 橋業曲局
 銀区苦具 君係輕血 決研県庫 湖向幸港 号根祭皿
 仕死使始 指齒詩次 事持式実 写者主守 取酒受州
 拾終習集 住重宿所 暑助昭消 商章勝乘 植申身神
 真深進世 整昔全相 送想息速 族他打对 待代第題
 炭短談着 注柱丁帳 調追定庭 笛鉄転都 度投豆島
 湯登等動 童農波配 倍箱畑発 反坂板皮 悲美鼻筆
 氷表秒病 品負部服 福物平返 勉放味命 面問役薬
 由油有遊 予羊洋葉 陽様落流 旅両緑礼 列練路和

愛案以衣 位困胃印 英栄塩億 加果貨課 芽改械害
 街各覚完 官管関観 願希季紀 喜旗器機 議求泣救
 給拳漁共 協鏡競極 訓軍郡徑 型景芸欠 結建健験
 固功好候 航康告差 菜最材昨 札刷殺察 参産散残
 士氏史司 試兎治辞 失借種周 祝順初松 笑唱燒象
 照賞臣信 成省清静 席積折節 說浅戦選 然争倉巢
 束側統卒 孫帶隊達 单置仲貯 兆腸低底 停的典伝
 徒努灯堂 働特得毒 熱念敗梅 博飯飛費 必票標不
 夫付府副 粉兵別辺 変便包法 望牧未満 未脈民無
 約勇要養 浴利陸良 料量輪類 令冷例歴 連老勞録

。、
 、々
 ～
 ※
 /
 ¥
 @
 |
 …
 I II III IV V VIII IX X ○ ● ▲ ▽ □ ■ ◆ ◇ ☆ ★
 ♠ ♣ ♡
 縦中横 ↓ !! !? ?? !?! ?!? !!!!!

引羽雲園 遠何科夏 家歌画回 会海絵外 角楽活間
 丸岩顔汽 記帰弓牛 魚京強教 近兄形計 元言原戸
 古午後語 工公広交 光考行高 黄谷谷国 黒今才細
 作算止市 矢姉思紙 寺自時室 社弱首秋 週春書少
 場色食心 新親函数 西声星晴 切雪船線 前組走多
 大体台地 池知茶昼 長鳥朝直 通弟店点 電刀冬当
 東答頭同 道読内南 肉馬壳買 麦半番父 風分聞米
 歩母方北 每妹万明 鳴毛門夜 野友用曜 来里理話

匠移因永 營衛易益 液演応往 桜恩可仮 価河過賀
 快解格確 額刊幹慣 眼基寄規 技裏逆久 旧居許境
 均禁句群 経潔件券 険検限現 減故個護 効厚耕鉦
 構興講混 查再災妻 採際在財 罪雜酸賈 支志枝師
 資飼示似 識質舍謝 授修述術 準序招承 証条状常
 情織職制 性政勢精 製稅責績 接設舌絶 錢祖素総
 造像増則 測属率損 退貸態回 断築張提 程適敵統
 銅導德独 任燃能破 犯判版比 肥非備俵 評貧布婦
 富武復複 仏編弁保 墓報豊防 賀暴務夢 迷綿輪余
 預容略留 領

異遣域宇 映延沿我 灰拵革閣 割株干卷 看簡危机
 貴揮疑吸 供胸郷勤 筋系敬警 劇激穴絹 権憲源敵
 己呼誤后 孝皇紅降 鋼刻穀骨 困砂液涸 裁策冊蚕
 至私姿視 詞誌磁射 捨尺若樹 収宗就衆 從縦縮熟
 純処署諸 除将傷障 城蒸針仁 垂推寸盛 聖誠宣専
 泉洗染善 奏窓創装 層操藏臟 存尊宅担 探誕段暖
 値宙忠著 庁頂潮賃 痛展討党 糖届難乳 認納脳派
 拜背肺俳 班晚否批 秘腹奮並 陛閉片補 暮宝訪亡
 忘棒枚幕 密盟模訳 郵優幼欲 翠乱卵覽 裏律臨朗
 論

玉緒晴は硬直していた。酒に酔っていた自分の幻聴かと思った。自らの耳を疑ったが、確認するすべは絶たれた。もう一度確認しよう。只今、絶賛自分の膝で寝息を立てている人物、糸切帝その人が、何を言ったのか。帝は確かに言ったのだ。突然肩を抱かれて、顔を寄せられて、どきまぎする時間も隙もなく、「結婚してくれ」と。酒に酔っているとは思えないほど、はつきりと。はつきりと。

しかしあまりに突然過ぎて、脳がその言葉を反芻している間に、彼は自分の肩で寝息を立てていた。声を掛けても、目覚める様子はない。その様子に、思わず晴は声を上げた。「またあ!?!」

以前にも、似たようなことがあった。あれは、帝の20歳の誕生日のことだ。自称・帝の友人にして、晴の元敵、……名前は何だっけ。エンセイヒ……ではなく、西園伶司……誤字ってる？ ちゃんと覚えてないから許して。

ともかく、帝の家へ向かう途中、何故か奴が現れて、晴にブランドーを渡したのだ。およそ中学生が渡すようなもか分からない。しかし、何となく、帝がそういう風に言うとは、言おうとしていたとは、晴には考えにくかった。

BGMにしていたテレビ番組がまじった。芸能人の結婚生活暴露トークなんか流していたから。付き合っていた頃の話、プライベートの話などをして流れて、プロポーズの話になった。多分、あれに刺激されて、口から出た。多分。多分そうだ。

あの言葉を言おうとして、延長戦という名の宅飲みを提案したのではないはず。帝との付き合いも長い。真意は帝にしか分からないが、晴には何となくそういう確信があった。同様に、突然思いつきで言うとも思えなかった。つまり、きっと帝の中には、以前から浮かんでいたのだ。『結婚』の二文字が。

その思考に至り、晴はほろ酔いの頬を更に赤らめた。例のブランドー事件の折に、晴はこんなことを叫んだ。『そりゃいつかはミカドとの予定だけど！ まだ早い！』あれから時は経ち、帝と一緒に朝を迎えること幾度。付き合ってもう5〜6年くらい。長い時間を過ごしてきて、基本的に仲は良好。時折喧嘩はするが、毎度仲直りがきちんと出来ている。と思う。別れるような険悪なムードになったことは今のところない。これほど長い間、こんな調子なのであれば、今後もきっとこんな感じだろう。であれば、

のではない、上等そうな酒を。未成年は酒を購入出来ない。その酒を、紅茶と混ぜて出した。上品な飲み物になると、西園伶司に唆されて。伝えられた比率は明らかに間違っていたのに、その間違った比率を何故か信じて、その通りに混ぜて出してしまったのだ。しかも、その紅茶——ほぼ酒を、帝は一気に身体に流し込んだ。その結果、一気に酔っぱらって、晴は帝に力ずくで迫られた。が、途中で帝は眠ってしまった、事なきを得たのだが……。

(ほんっっっつとミカドってばお酒に弱い！)

これ以外にも、帝は何度か酒を飲んで眠ってしまうことがあった。全く飲めないレベルではないし、寝てしまう以外に特に何かあったこともない。翌朝に引きずることもなく、寝る前までのことも大体覚えていて。しかしとにかく、寝る。

晴の肩からずり落ち、膝の上ですうすうと、顔に似合わない可愛い寝息を立てる彼の姿に、晴は嘆息した。

「……大事なことだったと、思うんだけど」

酒の勢いが必要なことだったのかどうか、それは帝にし

考えることはひとつ。

いずれ、帝とそうなれたらいいなあ、と。

晴はそろそろと、起こさないように帝の身体を床に横たえた。ソファーベッド横に横たわっている彼の枕と布団を持って来て、布団を掛け、頭の下に枕を差し込んでやる。帝はやや身じろぎしたが、自分の良い位置を見つけたのか、やがて落ち着いて再び寝息を立てた。

意外とさらりとしている彼の髪を撫でる。寝ている顔を見ても、彼の顔は精悍だと思ふ。彼に見つめられる度にドキドキしていたし、今もそうなる。

髪を撫でていた指を、頬へと移動する。愛しさが込み上げて来て、その頬へそっと口づける。

「……待ってる」

明日は、彼より早く起きよう。きっと彼は言ったことを覚えているけど、彼が切り出して来るまで、何事もなかったかのように、朝食の支度をするのだ。

彼の中にその文字があるのなら、彼はもう一度言ってくるだろう。でももう言われることは分かっている。心の準備をしておこう。

玉緒晴は待っている。それでも彼女は余裕を奪われる。喜びに涙を流すことを、この時の彼女が知る由はない。

玉緒晴は硬直していた。酒に酔っていた自分の幻聴かと思った。自らの耳を疑ったが、確認するすべは絶たれた。もう一度確認しよう。只今、絶賛自分の膝で寝息を立てている人物、糸切帝その人が、何を言ったのか。帝は確かに言ったのだ。突然肩を抱かれて、顔を寄せられて、どぎまぎする時間も隙もなく、「結婚してくれ」と。酒に酔っているとは思えないほど、はつきりと。はつきりと。

しかしあまりに突然過ぎて、脳がその言葉を反芻している間に、彼は自分の肩で寝息を立てていた。声を掛けても、目覚める様子はない。その様子に、思わず晴は声を上げた。「またあ!?!」

以前にも、似たようなことがあった。あれは、帝の20歳の誕生日のことだ。自称・帝の友人にして、晴の元敵、……名前は何だっけ。エンセイヒ……ではなく、西園伶司。誤字ってる？ ちゃんと覚えてないから許して。

ともかく、帝の家へ向かう途中、何故か奴が現れて、晴にブランドーを渡したのだ。およそ中学生が渡すようなも

か分からない。しかし、何となく、帝がそういう風に言うとは、言おうとしていたとは、晴には考えにくかった。

BGMにしていたテレビ番組がまぶしかった。芸能人の結婚生活暴露トークなんか流していたから。付き合っていた頃の話、プライベートの話などをして流れて、プロポーズの話になった。多分、あれに刺激されて、口から出た。多分。多分そうだ。

あの言葉を言おうとして、延長戦という名の宅飲みを提案したのではないはず。帝との付き合いも長い。真意は帝にしか分からないが、晴には何となくそういう確信があった。

同様に、突然思いつきで言うとも思えなかった。つまり、きっと帝の中には、以前から浮かんでいたのだ。『結婚』の二文字が。

その思考に至り、晴はほろ酔いの頬を更に赤らめた。例のブランドー事件の折に、晴はこんなことを叫んだ。

『そりゃいつかはミカドとの予定だけど！ まだ早い！』

あれから時は経ち、帝と一緒に朝を迎えること幾度。付き合ってもう5〜6年くらい。長い時間を過ごしてきて、基本的に仲は良好。時折喧嘩はするが、毎度仲直りがきちんと出来ている。と思う。別れるような険悪なムードになったことは今のところない。これほど長い間、こんな調子なのであれば、今後もきっとこんな感じだろう。であれば、

のではない、上等そうな酒を。未成年は酒を購入出来ない。その酒を、紅茶と混ぜて出した。上品な飲み物になると、西園令司に唆されて。伝えられた比率は明らかに間違っていたのに、その間違った比率を何故か信じて、その通りに混ぜて出してしまったのだ。しかも、その紅茶——ほぼ酒を、帝は一気に身体に流し込んだ。その結果、一気に酔っぱらって、晴は帝に力ずくで迫られた。が、途中で帝は眠ってしまった、事なきを得たのだが……。

(ほんっつっつとミカドってばお酒に弱い！)

これ以外にも、帝は何度か酒を飲んで眠ってしまうことがあった。全く飲めないレベルではないし、寝てしまう以外に特に何かあったこともない。翌朝に引きずることもなく、寝る前までのことも大体覚えていた。しかしとにかく、寝る。

晴の肩からずり落ち、膝の上ですうすうと、顔に似合わない可愛い寝息を立てる彼の姿に、晴は嘆息した。

「……大事なことだったと、思うんだけど」

酒の勢いが必要なことだったのかどうか、それは帝にし

考えることはひとつ。

いずれ、帝とそうなれたらいいなあ、と。

晴はそろそろと、起こさないように帝の身体を床に横たえた。ソファーベッド横に積んである彼の枕と布団を持って来て、布団を掛け、頭の下に枕を差し込んでやる。帝はやや身じろぎしたが、自分の良い位置を見つけたのか、やがて落ち着いて再び寝息を立てた。

意外とさらりとしている彼の髪を撫でる。寝ている顔を見ても、彼の顔は精悍だと思う。彼に見つめられる度にドキドキしていたし、今もそうなる。

髪を撫でていた指を、頬へと移動する。愛しさが込み上げて来て、その頬へそっと口づける。

「……待ってる」

明日は、彼より早く起きよう。きっと彼は言ったことを覚えているけど、彼が切り出して来るまで、何事もなかったかのように、朝食の支度をするのだ。

彼の中にその文字があるのなら、彼はもう一度言ってくるだろう。でももう言われることは分かっている。心の準備をしておこう。

玉緒晴は待っている。それでも彼女は余裕を奪われる。喜びに涙を流すことを、この時の彼女が知る由はない。

玉緒晴は硬直していた。酒に酔っていた自分の幻聴かと思った。自らの耳を疑ったが、確認するすべは絶たれた。もう一度確認しよう。只今、絶賛自分の膝で寝息を立てている人物、糸切帝その人が、何を言ったのか。帝は確かに言ったのだ。突然肩を抱かれて、顔を寄せられて、どきまぎする時間も隙もなく、「結婚してくれ」と。酒に酔っているとは思えないほど、はつきりと。はつきりと。

しかしあまりに突然過ぎて、脳がその言葉を反芻している間に、彼は自分の肩で寝息を立てていた。声を掛けても、目覚める様子はない。その様子に、思わず晴は声を上げた。「またあ!?!」

以前にも、似たようなことがあった。あれは、帝の20歳の誕生日のことだ。自称・帝の友人にして、晴の元敵、……名前は何だっけ。エンセイヒ……ではなく、西園伶司……誤字ってる？ ちゃんと覚えてないから許して。

ともかく、帝の家へ向かう途中、何故か奴が現れて、晴にブランドーを渡したのだ。およそ中学生が渡すようなもか分からない。しかし、何となく、帝がそういう風に言うとは、言おうとしていたとは、晴には考えにくかった。

BGMにしていたテレビ番組がまざった。芸能人の結婚生活暴露トークなんか流していたから。付き合っていた頃の話、プライベートの話などをして流れて、プロポーズの話になった。多分、あれに刺激されて、口から出た。多分。多分そうだ。

あの言葉を言おうとして、延長戦という名の宅飲みを提案したのではないはず。帝との付き合いも長い。真意は帝にしか分からないが、晴には何となくそういう確信があった。同様に、突然思いつきで言うとも思えなかった。つまり、きっと帝の中には、以前から浮かんでいたのだ。『結婚』の二文字が。

その思考に至り、晴はほろ酔いの頬を更に赤らめた。例のブランドー事件の折に、晴はこんなことを叫んだ。『そりゃいつかはミカドとの予定だけど！ まだ早い！』あれから時は経ち、帝と一緒に朝を迎えること幾度。付き合ってもう5、6年くらい。長い時間を過ごしてきて、基本的に仲は良好。時折喧嘩はするが、毎度仲直りがきちんと出来ている。と思う。別れるような険悪なムードになったことは今のところない。これほど長い間、こんな調子なのであれば、今後もきっとこんな感じだろう。であれば、

のではない、上等そうな酒を。未成年は酒を購入出来ない。その酒を、紅茶と混ぜて出した。上品な飲み物になると、西園伶司に唆されて。伝えられた比率は明らかに間違っていたのに、その間違った比率を何故か信じて、その通りに混ぜて出してしまったのだ。しかも、その紅茶——ほぼ酒を、帝は一気に身体に流し込んだ。その結果、一気に酔っばらって、晴は帝に力ずくで迫られた。が、途中で帝は眠ってしまった、事なきを得たのだが……。

(ほんつつつつとミカドってばお酒に弱い！)

これ以外にも、帝は何度か酒を飲んで眠ってしまうことがあった。全く飲めないレベルではないし、寝てしまう以外に特に何かあったこともない。翌朝に引きずることもなく、寝る前までのことも大体覚えていた。しかしとにかく、寝る。

晴の肩からずり落ち、膝の上ですうすうと、顔に似合わない可愛い寝息を立てる彼の姿に、晴は嘆息した。

「……大事なことだったと、思うんだけど」

酒の勢いが必要なことだったのかどうか、それは帝にし

考えることはひとつ。

いずれ、帝とそうなれたらいいなあ、と。

晴はそろそろと、起こさないように帝の身体を床に横たえた。ソファーベッド横に横たわっている彼の枕と布団を持って来て、布団を掛け、頭の下に枕を差し込んでやる。帝はやや身じろぎしたが、自分の良い位置を見つけたのか、やがて落ち着いて再び寝息を立てた。

意外とさらりとしている彼の髪を撫でる。寝ている顔を見ても、彼の顔は精悍だと思ふ。彼に見つめられる度にドキドキしていたし、今もそうなる。

髪を撫でていた指を、頬へと移動する。愛しさが込み上げて来て、その頬へそっと口づける。

「……待ってる」

明日は、彼より早く起きよう。きっと彼は言ったことを覚えているけど、彼が切り出して来るまで、何事もなかったかのように、朝食の支度をするのだ。

彼の中にその文字があるのなら、彼はもう一度言ってくるだろう。でももう言われることは分かっている。心の準備をしておこう。

玉緒晴は待っている。それでも彼女は余裕を奪われる。喜びに涙を流すことを、この時の彼女が知る由はない。

玉緒晴は硬直していた。酒に酔っていた自分の幻聴かと思った。自らの耳を疑ったが、確認するすべは絶たれた。

もう一度確認しよう。只今、絶賛自分の膝で寝息を立てている人物、糸切帝その人が、何を言ったのか。

帝は確かに言ったのだ。突然肩を抱かれて、顔を寄せられて、どぎまぎする時間も隙もなく、「結婚してくれ」と。酒に酔っているとは思えないほど、はつきりと。はつきりと。

しかしあまりに突然過ぎて、脳がその言葉を反芻している間に、彼は自分の肩で寝息を立てていた。声を掛けても、目覚める様子はない。その様子に、思わず晴は声を上げた。「またあ!？」

以前にも、似たようなことがあった。あれは、帝の20歳の誕生日のことだ。自称・帝の友人にして、晴の元敵、……名前は何だっけ。エンセイヒ……ではなく、西園伶司。誤字ってる？ ちゃんと覚えてないから許して。

ともかく、帝の家へ向かう途中、何故か奴が現れて、晴にブランドーを渡したのだ。およそ中学生が渡すようなも

のではない、上等そうな酒を。未成年は酒を購入出来ない。

その酒を、紅茶と混ぜて出した。上品な飲み物になると、西園伶司に唆されて。伝えられた比率は明らかに間違っていたのに、その間違った比率を何故か信じて、その通りに混ぜて出してしまったのだ。しかも、その紅茶——ほぼ酒を、帝は一気に身体に流し込んだ。その結果、一気に酔っばらって、晴は帝に力ずくで迫られた。が、途中で帝は眠ってしまった、事なきを得たのだが……。

(ほんつつつつとミカドってばお酒に弱い！)

これ以外にも、帝は何度か酒を飲んで眠ってしまうことがあった。全く飲めないレベルではないし、寝てしまう以外に特に何かあったこともない。翌朝に引きずることもなく、寝る前までのことも大体覚えていた。しかしとにかく、寝る。

晴の肩からずり落ち、膝の上ですうすうと、顔に似合わない可愛い寝息を立てる彼の姿に、晴は嘆息した。

「……大事なことだったと、思うんだけど」

酒の勢いが必要なことだったのかどうか、それは帝にし

か分からない。しかし、何となく、帝がそういう風に言うとは、言おうとしていたとは、晴には考えにくかった。

BGMにしていたテレビ番組がまざった。芸能人の結婚生活暴露トークなんか流していたから。付き合っていた頃の話、プライベートの話などをして流れて、プロポーズの話になった。多分、あれに刺激されて、口から出た。多分。多分そうだ。

あの言葉を言おうとして、延長戦という名の宅飲みを提案したのではないはず。帝との付き合いも長い。真意は帝にしか分からないが、晴には何となくそういう確信があった。

同様に、突然思いつきで言うとも思えなかった。つまり、きっと帝の中には、以前から浮かんでいたのだ。『結婚』の二文字が。

その思考に至り、晴はほろ酔いの頬を更に赤らめた。例のブランドー事件の折に、晴はこんなことを叫んだ。

『そりゃいつかはミカドとの予定だけど！ まだ早い！』

あれから時は経ち、帝と一緒に朝を迎えること幾度。付き合ってもう5〜6年くらい。長い時間を過ごしてきて、基本的に仲は良好。時折喧嘩はするが、毎度仲直りがきちんと出来ている。と思う。別れるような険悪なムードになったことは今のところない。これほど長い間、こんな調子なのであれば、今後もきっとこんな感じだろう。であれば、

考えることはひとつ。

いずれ、帝とそうなれたらいいなあ、と。

晴はそろそろと、起こさないように帝の身体を床に横たえた。ソファーベッド横に積んである彼の枕と布団を持って来て、布団を掛け、頭の下に枕を差し込んでやる。帝はやや身じろぎしたが、自分の良い位置を見つけたのか、やがて落ち着いて再び寝息を立てた。

意外とさりとしている彼の髪を撫でる。寝ている顔を見ても、彼の顔は精悍だと思う。彼に見つめられる度にドキドキしていたし、今もそうなる。

髪を撫でていた指を、頬へと移動する。愛しさが込み上げて来て、その頬へそっと口づける。

「……待ってる」

明日は、彼より早く起きよう。きっと彼は言ったことを覚えているけど、彼が切り出して来るまで、何事もなかったかのように、朝食の支度をするのだ。

彼の中にその文字があるのなら、彼はもう一度言ってくるだろう。でももう言われることは分かっている。心の準備をしておこう。

玉緒晴は待っている。それでも彼女は余裕を奪われる。喜びに涙を流すことを、この時の彼女が知る由はない。